

エルツおもちゃ博物館・軽井沢 2005 年春夏展のご案内
「日本におけるドイツ年 2005/2006」 参加企画

ドイツ・子どもの世界展

＝おもちゃと本から眺める森の国＝

特集：エルツ地方のクリスマス

2000 年 3 月 2 日（水）～10 月 10 日（月）

ドイツは、おもちゃと絵本の先進国です。19 世紀の教育学者フレーベルを皮切りに、教育思想に基づくおもちゃが次々に考え出され、また現代では「子どもに良い」と認定されたおもちゃに「シュピール・グート」というシートが貼られます。一方絵本の分野では、1845 年に『もじゃもじゃペーター』がイギリスの『不思議の国のアリス』よりも 20 年もはやく出版されました。

ドイツでは“個人の素質や能力を伸ばすことを重視する”教育が行われており、それが上に挙げたおもちゃや絵本、独特の教育制度、ひいてはマイスター制度にもつながっていると言えます。

子ども文化のゆたかな土壌を持ち、独自の方法で子どもたちを育ててきたドイツ。本展ではドイツで形づくられてきた子どもの小さな世界を、おもちゃと本の中に探っています。

★内容 展示点数：およそ 500 点

【A 展示室】

絵本の中に描かれたドイツのおもちゃたち

【B 展示室】

おもちゃとして息が吹きごまれたモチーフ

【C 展示室】

子供たちが遊んできたもの

★開館時間 3～6 月・10 月→9:30～17:00

7～9 月→9:30～17:30

★休館日 火曜日

★入館料 大人 600 円 中高生 400 円 小学生 300 円

（絵本の森美術館とのセット券：

大人 1000 円 中高生 700 円 小学生 300 円）

湘南日独協会 2005 年度活動予定

■ 8 月 27 日（土）会員懇話会 18:30～20:30

“ドイツから来日中の企業研修生と語る”

研修生 Jan Ruppert 氏（ベルリン自由大学工学部）

会場 ホテル法華クラブ 2 F レストラン・ヴェルデ

■ 9 月 25 日（日）第 41 回例会

講演会 ドイツサッカーの魅力を語る（仮題）

講師 奥寺康彦（日本初のプロサッカー選手）

会場 ホテル法華クラブ 2 階 ロータスホール

■ 10 月 22 日（土）会員懇話会

卓話 未定

講師 未定

会場 未定

■ 11 月 26 日（土）第 42 回例会

チター演奏会

出演 内藤敏子氏

会場 未定

■忘年懇話会

日時 未定

内容 未定

会場 未定

■ 1 月 28 日（土）第 43 回例会・定例総会

講演会 未定

講師 未定

会場 未定

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 7. NO. 4. 通巻 40. 発行 2005. 7. 30.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1

江ノ電第 2 ビル 7 F・江ノ電沿線新聞社内

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

（風）

2005 ドイツフェア

今年もビールの美味しい季節となりました。湘南の夏を彩る恒例のビール祭り「ドイツフェア」が今年もドイツ風料理とドイツの音楽で楽しく繰り広げられます。



昨年のドイツフェアより

●演奏 楽団「エーデルワイス カペレ」

●合唱 湘南日独協会合唱団「アムゼル」

日時 2005 年 7 月 30 日（土）

午後 6 時 30 分開演（午後 6 時開場）

会場 藤沢市民会館 - 第 1 展示ホール

主催 湘南日独協会

しっとりとした古都フルダ

会員 正木 澄

ベルリン、ドレスデンに各3連泊、ワイマールに連泊した後、ワルトブルク城に登り、古楽器演奏をバックした旧宅で楽しんだ上でのドイツ最後の宿りはフルダの“Goldener Karpfen” (Romantik-Hotel-Restaurant)であった。

美しい外観から「高そうだな!」の第一印象と、「ゲーテが愛用した宿だからバス無し」の心配が出た。手重りする鍵で開いた部屋は広く、近代的に改造され、19世紀絵画まで懸つている。グループのお別れ夕食会の料理、ワインも美味で、「ドイツ美味の旅」の総仕上げに相応しい。ゲーテはここでビールを飲み、魚料理を堪能したと言われ、「ゲーテ・メニュー」もお勧めである。

フルダの歴史は、「ドイツ人の使徒」と今でも呼ばれている英人司教ウィンフリートがベネディクト派修道院を建設した744年に始まった。彼はドイツ全土への布教の功績で、「ポニファティウス」の名を授けられ、その後現在のオランダの地で殉教し、この修道院に葬られた。

修道院長、司教、領主としてカトリックが支配したフルダは宗教都市として城館も建築され、また交通の要衝になった。先の修道院の上に1704年から建設されたバロック様式の大聖堂は力に溢れた建築だが、ロマネスクの素朴さやゴシックの尖塔とは異なり、人の心を惹き付ける装飾性を帯びた会堂である。大聖堂の隣には僧侶墓地の礼拝堂であるミヒヤエル教会が聳え、市中には市教会があり、緑の大街路樹、カスターニエン越しに見え隠れする。フルダではマクドナルドの店も難しいという。

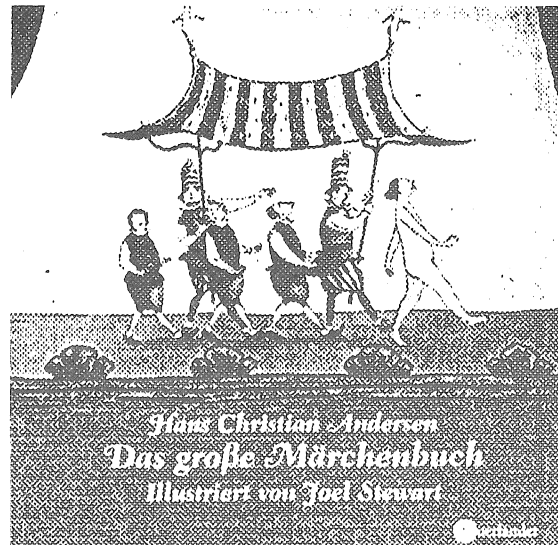
領主の夏の離宮、ファサナリー城は磁器・金属器コレクションが有名で、柿右衛門の「色絵楼閣山水文壺」を見に行くだけでもフルダを訪ねる価値がある。

“アンデルセン童話とグリム童話” 宮下敬三先生の講演会に出席して

会員 佐合 美由紀

今年は、アンデルセンの生誕200年目にあたり日本でもなじみ深いアンデルセンの物語「マッチ売りの少女」を中心に宮下先生に講演していただきました。日本では、子供のための絵本として数多くの物語が読み聞かされていますが、アンデルセンの物語はすべてが子供向けの「童話」ではないのです。

「物語」の日本的理解が本当の作者の意図した意味を理解することを拒絶してしまっている事を、実際に日本で作られた絵本やアニメを通して検証しました。アンデルセンのメッセージが日本的理解による絵本の挿絵や描写が歪められた形で紹介されている事も誤解が生じるひとつの要因です。私たちが、童話として幼い頃読んだ絵本はヨーロッパのイメージ形成に大きく関与してきたのではないのでしょうか。ヨーロッパの社会や文化の理解に際して、絵本やアニメが持つ影響力を感じずにはられません。久しぶりに大学の講義を受けている様で、有意義なひとときを過ごす事ができました。



ドイツ映画祭2005に参加して

6月初旬、有楽町でドイツ映画25作品が上映されました。ご覧になった方がいましたか? 重く、暗いイメージのドイツ映画(Uボートは泣けますね)ですが、喜劇と子供向けを見に行ってきました。『何でもツッカー』はユダヤ人であることを隠していた男が、母の遺言どおりにユダヤ教式の喪に服さねばならず、嘘の上塗りをする喜劇。音信不通だった仲の悪い兄弟(若貴みたい?)がこのドタバタした喪中を通してそれぞれの家族ともども打ち解けていくというストーリー。いまだにユダヤ人であることを隠したり、同性愛がごく普通であるということは笑いの中にも驚きがありました。『弟が犬になっちゃった』は、姉と魔法によって犬にされた弟が巻き起こす騒動に家族が巻き込まれ、てんやわんやの内に元の鞘におさまるホームムービー。子供たちのかわいいこと。監督の舞台挨拶に続き質問コーナーでは、英語、ドイツ語での質問に監督がびっくりしたり、来場者の中から2歳の男の子にお菓子入りのリュックがプレゼントされたりと楽しい時間もプラスされました。毎年、こういう企画があればいいのですが。7/9(土)より『ヒトラー〜最期の12日間〜』が渋谷シネマライズにて上映、『青い棘』は秋にBunkamura ル・シネマにて上映される予定です。お楽しみに!! 広報委員 白石 麻実

『ドイツ・ランド』開催

「最高のドイツをプレゼントします!」のキャッチコピーで、自動車、カメラ、ぬいぐるみ、ビール、食品など、身近な素材を通して、ドイツを満喫していただけるイベントです。夏休みにドイツにひたってみてはいかがでしょうか。

日時 7/30(土)~8/31(水) 10~18時
会場 新高輪プリンスホテル「飛天の間」
チケット 前売り1,500円(当日1,700円)
主催 フジテレビ eee.eplus.co.jp